

緑のまきば

1995 No.27

小金井緑町教会
小金井市緑町四十六番三
電話〇四三・八一・七九六一
編集・牧師 山本圭一

教説

実によって木を知る

(マタイ福音書7章15-23)

山本圭一

膨大な情報の飛びかう現代の社会の内に持ち込まれた「世を支配あらゆる分野で、その真偽を見分けることができぬまま、次々と驚くべき腐敗と狂乱の実態が、この頃、私たちの耳目に飛び込んできます。「偽預言者を警戒しなさい」山上の説教におけるイエスの警告は、いま、周りにいる指導者たちを再点検するよう促しています。

実を結ぶ

「この都の中で、役人たちはほえたける獅子、裁判官たちは夕暮れの狼である。朝になる前に、食らい尽くして何も残さない(ゼファニア3章3)。人間の腐敗は、時を越えて共通するものがあります。しかも、この外の実態は、必然的に内にも波及してきます。

初代教会の場合、教会に入りこんで不当な教えを言いふらす熱狂主義の人々がいました。彼らは貪欲な狼であるのに、羊の皮を身にまとった普通の様子をして教会を混乱させていました。パウロも教

の行為・実践を良心にまでくい込んで鋭く問われました。主よ、さらに「わたしに向って『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである」と言われました。ここでは、「主よ、主よ」と言う者と、天の父の御心を行う者が対比されています。当時「主よ」という呼び名はローマ皇帝への尊称でありましたから、皇帝を差し置いて天の父を主と呼ぶことには、非常な危険を覚悟する必要があります。それ以上、父の御心をひたすら行うのでありますから、状況は非常に厳しいわけですね。ここで言われているのは、もちろん行為によって人が神の前に義とされるなどと語られているのではありません。イエスは行為という実を結ばぬ信仰を斥けられたのです。

打ち砕かれた高慢

しかし弟子の行為がイエスの名によって預言したり、悪霊を追い出す華々しい行動であったとしても、神のみ前では直ちに受け容れられるとは限らない、と更に深く私たちの心の奥底、良心の位相を凝視されます。「そのとき(すなわち終りの裁きの日)あなたたちは、もうタジタジするばかりです。省察すると華々しい行為や人目につく行動も、しばしば私がやったという高慢によって、愛なしに行われることがあるからです。ルタは「人間は誰しも自分の行為に對して、わたしがそれをやったと言おう」と語りました。イエスの山上の説教は、私たちの心の内側を限りなく透明にし、愛のない不純物の一切を浮び上らせて下さいます。その上で私たちの罪を十字架によって帳消しにし、到底、神に受け容れられない私たちを赦し、受け容れて下さいました。この福音から新しい戒めが、イエスによって届けられたのです。そこには「山上の説教」全体を総括しているあの「黄金律」に、再び結びつく真理の躍動があります。「だから、人にしてもらいたいと思ふことは何でも、あなたも人にして下さい。これこそ律法と預言者である。」(マタイ7章12)

何かをしない、という消極的な戒めをモットーにする生活態度があります。しかしキリストの救いに与った者は、この消極的な境界線突破し、進んでこの世に向う者に変えられます。ここに現代に生きる卓越した社会倫理があります。その決め手は自分の中にある「われ」が、主の戒めの中に拭い去られているか、どうかです。